

臨床研究「ハイリスク妊娠での分娩方法が母体や児に与える影響に関する調査研究」について

筑波大学附属病院産科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

帝王切開分娩は様々な要因により近年増加傾向ではありますが、ひとりのお母さんにおける帝王切開分娩の回数が増えると、前置胎盤や癒着胎盤などのお産に関連した合併症や手術に関連した合併症が増えることが報告されています。双胎（ふたご）妊娠や既往帝王切開後妊娠（帝王切開分娩経験がある方の妊娠）などのハイリスク妊娠では、状況に応じて帝王切開分娩もしくは経膈分娩が行われますが、分娩方法が母体や児へどのような影響を与えるのかについて、十分な情報はありません。本研究では、ハイリスク妊娠での分娩方法が母体や胎児にどのような影響を与えるのかを明らかにすることが目的です。今後、双胎妊娠や既往帝王切開後妊娠などのハイリスク妊娠での分娩方法を検討する際に有用な情報となります。

② 研究対象者

2010年1月1日から2021年6月30日までに当施設で妊娠・分娩管理を行った患者さん

③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2025年12月31日まで

④ 研究の方法

当院で妊婦・分娩管理された方の診療情報（年齢、産科歴、既往歴、妊娠経過、血液検査、分娩方法、周産期転帰、児の経過・転帰など）から分娩方法と母体や児の転帰との関連を明らかにします。

⑤ 試料・情報の項目

検査データや診療記録などを使用します。

⑥ 試料・情報の管理について責任を有する者

筑波大学附属病院 [研究責任者] 濱田 洋実（産科 教授）

⑦ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族（ご遺族）が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑧ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：産科 細川 義彦

電話：029-853-3608（産婦人科外来 平日 8:30～17:15）

028-896-7400（産科病棟 上記以外の時間帯）担当医を呼び出してください